

日本音楽知覚認知学会 平成 23 年度 第 1 回理事会議事録

日時：平成 23 年 6 月 4 日（土）11：00～13：05

開催場所：京都市立芸術大学

出席者（敬称略）：大浦容子、星野悦子、中島祥好、小川容子、三浦雅展、谷口高士、山田真司、
荒川恵子、上田和夫、大串健吾、苧阪満里子、桑野園子、佐々木隆之、佐藤正之、
津崎実、中田隆行、中山一郎、藤沢望、古矢千雪、森下修次、山崎晃男、
岩宮眞一郎、難波精一郎

オブザーバー：羽藤律、安田恭子、高橋範行、安井希子

議題

1. 会員状況報告（報告：三浦雅展学会事務局担当常任理事）

会員総数：292 名（平成 23 年 3 月 31 日現在）昨年同時期に比べて会員数が 8 名増であることが報告された。

会員内訳：名誉会員 2 名、正会員 257 名、学生会員 33 名であった。

2. 平成 22 年度事業報告

(1) 春季研究発表会開催（報告：谷口高士研究発表会担当常任理事）～公立ほこだて未来大学（世話人：中田隆行理事）で開催された。

(2) 秋季研究発表会開催（報告：谷口高士研究発表会担当常任理事）～三重大学（世話人：佐藤正之理事）で開催された。

(3) 学会賞授与（報告：小川容子学会賞担当常任理事）～平成 22 年度秋季研究発表会での研究選奨受賞者について報告された。

受賞者名前：田部井賢一（たべい けんいち）

題目：音楽の情動表現と聴取者の情動反応の評定に関わる神経基盤

(4) 学会誌発行（報告：山田真司学会編集担当常任理事）

現在、学会誌の発刊が滞っていることへのお詫びと編集状況について理事会後半に審議する旨説明があった。

(5) アーカイブ WG 報告（報告：WG チーフ 桑野園子理事）

学会アーカイブWGの作業が進んできてほぼ完成に近いこと、ウェブサイトにもきちんと掲載されたことが報告された。今後追加して掲載したい情報として、①歴代会長からのひとこと、②総会資料、③理事会議事録、が提起され、了承された。

(6) 著作権 WG 報告（報告：WG チーフ 中島祥好副会長・国際渉外担当）

著作権の留意事項についてチェックリストを作成することになっており、その作業は学会誌編集委員長に依頼したいとの報告があった。理事会資料として、「困る」対策：まとめが提供された。図の引用事例について大串理事から質問があり、WGメンバーが回答する一幕もあった。権利意識の高まりに伴い、引用については特に注意を要することが強調された。

(7) 学会賞 WG 報告（報告提案：WG チーフ 小川容子学会賞担当常任理事）

学会賞WGでの検討された結果が報告され、了承された。①学会賞（論文賞、研究選奨、特別賞）の授賞回数については「同一人の受賞は1回限り」と会則に明記する。②研究選奨候補者について聴衆への周知をするために、当日のプログラムに「●」などの印を付けて表記する。研究選奨受賞者一覧を学会ホームページにアーカイブとして掲載されていることもプログラムに付記する。③発表回数が多い場合でも、その旨を考慮しない。④選考委員以外の意見を反映させる方法としては、理事による任意推薦を選考のための情報として活用することを今研究発表会で試行し、理事の意見を聞いて秋の理事会で再提案することとなった。座長による推薦も提案されたが、今回は見送られた。

(8) 会則・細則の改訂について（報告：星野悦子副会長・会則担当常任理事）

昨年度秋季の理事会で承認された会則改訂部分に加えて、今回新たに第11条：「常任理事についての条項」、第17条の追記部分「投稿論文の英文添削のために編集委員会に非会員の参加を認める」、および第18条：「総会についての条項」を加えた旨が報告された。「学会本部」と「学会事務局」の関係について議論され、「学会本部・事務局」とすることとなった。その他、文言への細かい訂正案が若干数提案された上で、条項自体はすべて了承された。

3. 平成22年度決算報告（報告；三浦雅展事務局担当常任理事）

昨年度の収支報告が報告された。

4. 平成22年度監査報告（報告：岩宮眞一郎監事）

会計監査を行なった岩宮監事より、適正に収支決算がなされていたことについて報告された。昨年度の収支報告は了承された。

5. 平成23年度事業計画

(1) 研究発表会（報告提案：谷口高士研究発表会担当常任理事）

平成23年度の研究発表会について、春季は京都市立芸術大学（津崎実準備委員長）、秋季研究発表会は新潟大学の駅南キャンパスにて平成23年12月3日～4日に開催（森下修次準備委員長）の予定である旨が報告された。

その後、講演者要件について、現在は非会員であっても申込みができ発表可能である（できないとは会則に記されていない）が、発表者は会員に限ると会則に明記するかどうかについて審議した。採決の結果、現状のまま（会員であることを義務付けない）とすることが決まった（「義務づけない」賛成12、「義務づける」賛成8）。入会の働きかけは積極的に行なっていくことになった。

(2) 学会誌発行（報告提案：山田真司学会誌編集担当常任理事）

現在、Vol. 15, No. 1&2（本来2009年度）が印刷会社に入稿済みであり、7月初旬に発行の見込みであることが報告された。

今後の運営方法について、今後は会員サービスを第一と考え、原著論文・資料論文が掲載されない場合にも解説などの読み物的記事を含んでの定期的発行を目指すことが提案され、了承された。

編集方針には3つの案が提案された（3-1案：今年中にVol. 16 No. 1&2を発行し、来年2012年にVol. 17およびVol. 18を発行して2013年から通常通りVol. 19のナンバーに追いつく、3-2案：Vol. 16 No. 1&2, Vol. 17 No. 1&2を一気に合併号として今年末に発行し、2012年には実際の発行年に追いつき、年2号の発行を維持、3-3案：Vol. 16 No. 1&2, Vol. 17 No. 1&2を一気に合併号として今年末に発行し、2012年発行分

から (Vol. 18 以降) は年に 1 号の発行とする)。3-1 案については発行年に追いつくまで 2 年かかること、3-2 案と 3-3 案については実質的には欠巻になるので会員への会費返却等の措置が必要になることが検討すべき点として示された。理事の間から、3-1 案については「今後も年 2 号の発行を続けるという案であるが、本当にそのような発刊体制を続けることができるという見通しはあるのか。年 1 号の発刊に切り換えた方がよいのではないか」との質問が、3-2 案と 3-3 案については「2 巻分を合併するのはさけた方がよい」との意見が出た。新しい編集方針によって定期刊行の目処が立ったとの山田常任理事の発言があったので、まずは Vol. 16 No. 1&2 の発刊を急ぎ、今後の発行予定を明確にした上で理事メールで検討し、秋の理事会で決定することとなった。

研究選奨受賞者の発表内容を学会誌に「速報」というジャンルを設けて優先的に掲載することになった。受賞発表について選定委員のコメントを載せ、必要な場合には修正を施す。ホームページにも掲載することも視野に入れる。速報内容はその後新たに原著論文・資料論文の一部としての使用を妨げない旨を、掲載ページ上に明記する。速報の投稿規定(案)を山田常任理事が作成し、秋の理事会までに決定する。

新たな編集態勢についても提案があった。これまでの編集委員(理事全員)を「査読委員」と称することにしたいとの申し入れがあり、承認された。これにより、会則の第 17 条の一部が修正されることになった。あわせて、編集長の指示のもとで実務作業を行う編集委員を設けることが了承された。

6. 平成 23 年度予算案(提案:三浦雅展事務局担当常任理事)

今年度の予算案が提出され、了承された。

7. 会費未納者の扱いについて(提案:三浦雅展事務局担当常任理事)

平成 23 年度 3 月末日現在で会費が 3 年間未納の者 14 名の氏名が報告された。うち転居先不明者 6 名。再請求後に除名とする旨が了承された。

8. APSCOM 関係及び「日本音楽知覚認知学会国際活動支援基金」からの支出について(報告提案:中島祥好副会長・渉外担当理事、APSCOM 会長)

APSCOM に関する状況報告(「APSCOM 仮規約」を作成したこと、これについて北京で検討・決定することになるだろう、等)と、APSCOM 4 開催に関連する経済的支援の依頼(札幌での ICPC10 (APSCOM3 を兼ねる)で中国からの参加者に対する経済的支援をオーストラリア (APSCOM1 を開催) から受けているので、そのお返しとして日本からも APSCOM に国際活動の支援基金をして欲しい。中国出張での通訳費用の負担をしてほしい)がなされた。経済的支援の依頼については次回の理事会で継続審議することとなった。

9. 学会賞の選考について(報告提案:小川容子学会賞担当常任理事)

Vol. 13, Vol. 14 が発行されたので、学会賞規定に則り、この 2 つの巻に掲載されている論文を対象に「論文賞」の選考を行うとの報告があり、理事に対して論文推薦の依頼があった。

10. 日本音楽知覚認知学会役員選挙結果について(報告:選挙管理委員長 谷口高士常任理事)

次の会期(2 年間)の役員選挙の結果が報告された。次期会長:大浦容子氏、次期副会長:中島祥好氏・小川容子氏、次期理事は 23 名である。

谷口高士選挙管理委員長から、選挙に関わる規定が明文化されていないので、これまでの慣例や合意事項を含めて、選挙細則を整備していくことが提案され、谷口高士常任理事を中心にその作業を進めていくことが了解された。

大浦会長から、次期の編集委員長として現在の副委員長である津崎実理事に依頼したい旨の提案があった。これについての異論はなく、拍手をもって理事会で承認をした。また、他の理事の担当は次期もそのまま引き続き依頼したい旨の提案があり、承認された。

11. その他

・東日本大震災での会員の被災状況報告（報告：星野悦子副会長）～3月11日の東日本大震災の会員被災状況について調査した結果、被災5県に住む17名のうち3名にはまだ連絡がつかない旨、報告された。今後、学会としての支援について理事メールで審議していくことになった。

・ホームページ関連（報告：藤沢望ホームページ担当理事）～学会ホームページが装いを新たに立ちあげられたこと報告された。新サーバ、新ドメインへの移転について、ドメイン利用にかかる経費、およびホームページ・リニューアルおよび掲載情報についても報告され、了承された。

- ・会員サービスの充実について（学会誌、研究発表会資料の学会HPへの掲載、ほか）～継続審議。
- ・会員名簿の作について（必要性についての検討）～理事メールを通して審議を継続する。

以上